

インクルーシブの窓

令和7年5月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



スタディ・メイトさんを応援しましょう！



今年度のスタディ・メイト養成講座が始まりました。第一回は、開講式後に全体研修会があり、約 50 名の受講者の皆さんは、富山県こどもこころの相談室カウンセリングオフィスこころのおと代表の深澤大地先生の講演『ティーチャーズ・トレーニング入門一子供の力の引き出し方』に熱心に耳を傾け、子供への関わり方について理解を深められる充実した研修となりました。深澤先生には改めて感謝申し上げます。

さて、養成講座受講者の中には、すでにスタディ・メイトして小・中学校に勤務している方もおられます。富山県のスタディ・メイト（富山市はスクールサポーター）の配置校数は年々増加しており、令和6年度は小学校が171校、中学校が59校でした。また、配置人数は509名でした。文部科学省が全国調査を開始した平成27年度と比べると、中学校の配置校数が大きく増え、小・中学校合わせた配置人数も約1.4倍に増加しています。

ここで、スタディ・メイト（特別支援教育支援員）の具体的な役割を確認しましょう。

①基本的な生活習慣確立のための日常生活上の介助

- ・自分で食べることが難しい児童生徒の食事の介助
- ・身支度の手伝い
- ・排泄の介助

②発達障害の児童生徒に対する学習支援

- ・教室を飛び出して行く児童生徒に対する安全確保や居場所の確認
- ・読み取りに困難を示す児童生徒に対する黒板の読み上げ
- ・聞くことに困難を示す児童生徒に対して教員の話を繰り返す

③学習活動、教室間移動等における介助

- ・制作、調理、自由遊びなどの補助
- ・児童生徒と一緒に教室移動

④運動会（体育大会）、学習発表会、修学旅行等の学校行事における介助

- ・慣れていない場所での移動や乗り物への乗降の介助

※ 支援の形態は、個別に支援

子供が一人でできる部分は見守り、完全にできないところもできるだけ自分の力で行うように励ます。

『「特別支援教育支援員」を活用するために』文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（平成19年6月）より

スタディ・メイトの方々が子供たちに寄り添い、励まし、自信をもたせるなど、熱意と愛情あふれる支援をしておられることに感謝しつつ、学校では子供を真ん中に置き、先生方との日常的な連絡・連携が行われることを願っています。